

## 岡山県下の老人ホームヘルプサービス事業に関する研究

橋 本 祥 恵  
藤 井 保 人  
迫 明 仁

### 要 約

人口の高齢化に伴ない、岡山県内の各市町村や社会福祉協議会において、ホームヘルパーの増員が計られている。ホームヘルパー養成は3級課程の養成を行ってきた市町村がほとんどであった。3級課程は家事型ヘルパー養成であるが、在宅ケアの推進によりサービス利用者側では疾病等を有する身体虚弱な老人（要援護老人）が増えており、介護型ヘルパーを求める声が強くなりつつある。今回の調査では、ホームヘルプサービス利用者の身体症状は運動器系、感覚器系、その他老化に伴う能力低下等の状態が多かった。市町村によっては利用者の身体症状の発現率が県下の平均を上回るものがみられ、さらに利用者像が一様でない様相がみられた。その背景には、各市町村または社協の要援護老人へのホームヘルパー派遣は、高齢者の各種身体症状発現率の違いよりも、派遣決定に関わるその他の条件が利用者像の決定に関与している可能性も考えられた。

また、利用者像へのヘルパーの対応状況をみたところ、家事家政や介護業務よりも相談助言活動が著しく多かった。この傾向は、筆者らの「老人・障害者（児）援助業務に関する調査報告（第2報）」でも明らかになっている。さらに今回は、相談助言活動の内容からヘルパーに求められる資質や今後の現職研修のあり方等、また、介護福祉士の教育内容にもふれるいくつかの示唆を得た。

キーワード：要援護老人、身体症状、ホームヘルプサービス内容、ヘルプ能力

### はじめに

岡山県下各市町村の人口高齢化が急速に進んでいることは周知のとおりである。国の高齢化対策もめまぐるしいなか、在宅ケア推進の要となるホームヘルパーの増員と資質の向上を図る計画も策定された（新ゴールドプラン）。市町村はこれを受けてホームヘルパーの養成を3級課程から2級課程に切り替え、介護型ヘルパーの養成に取り組みだし、2級、1級有資格者や介護福祉士の新規採用も徐々に増えつつある。

ホームヘルパー養成カリキュラム検討委員会は、平成7年5月に、これから「求められるホームヘルパーの基本像」を提案している。その内容は以下のようなものである。

(1) 福祉サービスの基本的視点の理解

QOL, ノーマライゼーション, チームケアの視点

(2) 必要な知識・技術

福祉制度とサービスに関する知識

ホームヘルプサービスの役割, 職業倫理

サービス利用者及びその家族に関する知識

具体的な援助方法・技術と知識 (アセスメントとケア計画, 介護技術, 家事援助技術, 相談援助技術, 住宅・福祉用具の知識)

関連分野の知識 (医学, 看護学, リハビリテーション医学, 心理的援助技術)

といったものである。この提案からは, 保健・医療・福祉のチームケアに参画できる人材養成への期待がうかがえ, さらに資質のステップアップを図る研修, 介護福祉士との関係等についてもふれており, ホームヘルパーの位置づけが一段と明確になっている。

21世紀の老人介護は国民的課題であり, 在宅介護サービスの拡充は急務である。新カリキュラムでの養成者に期待するところは大きい, 現在の県下のホームヘルプサービスの利用者像とサービス事業内容の概要を把握し, あわせて今後の介護福祉士教育にも生かしたいと考え本調査を行った。

## 1. 調査方法

1. 調査対象; 岡山下市町村及び社会福祉協議会に所属するホームヘルパー517名

2. 調査方法; アンケート調査 (郵送法)

アンケート内容は, ①年齢, ②経験年数, ③所属機関の自治体名, ④担当ケースの身体症状 (28症状を具体的に示し, ヘルパーが直接担当している利用者の身体症状を該当項目に延べ数で記入してもらった。なお, この項目は長寿科学振興財団の行った「長寿科学ニーズ基礎調査」の一部を了解を得て使用した), ⑤身体症状のある利用者へのヘルプ活動 (対応) の実際 (記述式, 症状のある3事例を選択してケア内容を記述する), ⑥業務中における利用者との通常の会話内容 (記述式, 3つまで), ⑦ヘルパーの目を見た高齢者福祉施策として有効と考える施策について (33施策を列挙しておき, 有効と考える施策を1~10位まで選ぶ) 等である。なお, 調査用紙は所属機関毎に一括送付し回収した。

3. 有効回収数; 291名分 (有効回収率; 56.3%) 回収機関の数は60箇所であったが回収時期の遅れにより, 分析対象はそのうち57機関分とした。

4. 調査月日; 1994年7月~8月。

## 2. 結 果

1) 対象者の基本属性

調査の分析対象者は、291人全員が女性であった。年代別には40歳代が最も多く（45.7%）、次いで50歳代（24.4%）、30歳代（24.1%）、20歳代（3.4%）、60歳以上（2.4%）の順であった。

ホームヘルパーとしての経験年数は、5年以内（54.0%）、5年～10年（21.6%）、11年～15年（9.8%）、16年～20年（10.8%）、それ以上（3.8%）で最高は29年の経験があった。平均勤務年数は6.9年である。

表1. 年齢階層と勤務年数

年齢階層	人数	%	勤務年数	人数	%
20歳代	10	3.4	5年未満	155	54.0
30歳代	70	24.1	5～10年	62	21.6
40歳代	133	45.7	11～15年	28	9.8
50歳代	71	24.4	16～20年	31	10.8
60歳代	7	2.4	21年以上	11	3.8
			平均年数	6.9	

## 2) ホームヘルプサービス利用者の身体状況

ホームヘルプサービス利用者の身体症状は、延数で7,387件数であった。多かった症状は、1位；視力障害(739件)、2位；歩行時の問題・躓きやすい・転びやすい(601件)、3位；難聴・聞こえにくい(556件)、4位；腰痛(511件)、5位；関節痛(510件)、6位；動悸・息切れ(436件)、7位；皮膚等の老化現象(426件)、8位；四肢麻痺・拘縮(386件)、9位；歯牙口腔問題(336件)、10位；慢性便秘・下痢(300件)であった。上位には視聴覚(感覚器系)と四肢・関節(運動器系)、歯牙口腔の問題が多く、内部症状では動悸・息切れ(循環器系)や慢性便秘・下痢(消化器系)がみられた(表2)※注1。

## 3) 市町村毎のホームヘルプサービス利用者の特徴

市町村におけるホームヘルプサービス利用者像の特徴を障害のレベル別に把握するために、症状を機能形態障害(主として内部障害、医学的管理下にあるようなもので、A群とする)、能力障害(自助具・補助具利用または老化に伴う慢性的なもので、B群とする)、社会的不利(対社会認識などで、C群とする)に再分類してみた。A群は14症状で発現率の計は30.8%、B群は12症状で64.6%、C群は1症状で4.7%であった。B群がA群の2倍の発現率であった。(図1)

さらに、市町村別にみた各症状の発現率の平均とその標準偏差から、市町村別の発現率のばらつきが大きい症状は、1位；四肢麻痺・拘縮、2位；失禁、3位；歩行時の問題、4位；視力障害、5位；動悸・息切れ、6位；難聴、7位；関節痛、8位；腰痛、9位；口腔歯牙の問題であった(表3；表中の反転表示部分は、平均より標準偏差も大きい値を示す)。

\*注1；岡山県下57市町村で高齢化の最も進んでいるのは備中町で37.7%、最も低いのは早島町で10.2%である。富村、川上町、旭町、勝田町、奥津町、加茂川町ではすでに30%を越えている。25%～29.9%の範囲には16町3村、20%～24.9%の範囲には、高梁市、新見市、笠岡市、井原市の4市と13町2村、15%～19.9%には、備前市と津山市の2市と県南の5町、14.9%以下は岡山市、倉敷市と灘崎町、真備町、早島町の3町である。(岡山県社会福祉協議会「社協便覧：平成7年度」より算出。

表2. 岡山県下市町村のホームヘルプ事業利用者の身体症状の実数（複数回答）

市町村名	高齢化率	身体症状の実数																
		※1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
備中町	37.2	1	2	0	1	4	3	0	2	5	0	1	0	0	1	5	0	0
富村	32.7	2	4	0	0	3	0	0	1	0	0	0	3	0	0	2	0	0
川上町	31.8	5	4	3	3	17	13	1	2	7	2	2	18	4	2	0	7	1
旭町	31.0	0	0	0	0	6	10	1	0	1	0	0	2	2	0	0	2	0
勝田町	31.0	0	17	2	0	7	11	1	1	11	8	2	6	0	0	1	3	19
奥津町	30.3	9	7	2	1	7	15	0	1	7	1	5	12	3	2	6	3	1
加茂川町	30.0	0	0	0	0	4	5	0	0	0	2	5	1	0	0	0	0	0
阿波村	29.6	8	3	2	6	0	2	1	0	1	2	2	3	1	6	1	1	0
作東町	29.5	4	4	0	0	19	9	0	5	1	0	15	14	7	1	0	1	0
有漢町	29.5	1	8	3	0	2	3	0	0	4	1	2	5	0	7	9	7	4
芳井町	29.3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
東栗倉村	29.2	4	8	4	2	12	7	3	2	8	7	4	13	2	3	4	2	3
神郷町	29.0	1	6	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0	1
美星町	29.0	2	7	9	3	5	11	2	1	1	4	0	14	1	1	1	0	4
久米南町	28.7	0	10	4	1	4	7	0	0	3	0	4	2	0	0	0	0	0
美甘村	28.7	3	2	0	0	9	11	0	0	4	2	1	5	1	4	7	1	3
成羽町	28.6	5	2	3	1	16	11	0	1	4	0	1	9	0	3	4	5	0
哲西町	28.1	2	8	17	4	28	28	3	8	6	1	1	10	5	4	6	10	3
大原町	27.8	4	1	11	11	45	20	10	16	13	2	6	25	1	3	5	4	3
佐伯町	27.7	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賀陽町	27.0	0	3	0	0	10	8	2	1	0	0	0	10	0	2	7	7	1
北房町	26.6	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
加茂町	26.4	2	1	2	0	4	4	1	1	0	0	0	2	1	0	2	0	2
牛窓町	25.4	0	6	3	3	15	8	2	3	4	2	2	4	1	4	7	3	6
建部町	25.3	0	0	0	0	5	6	0	0	10	0	0	0	0	1	1	0	0
久米町	25.1	6	10	5	5	17	12	5	2	8	3	11	13	3	9	7	6	8
八束村	24.6	0	1	0	0	8	10	0	2	1	1	3	9	4	4	1	0	1
鏡野町	24.4	2	6	2	1	11	13	0	0	7	1	3	3	0	5	4	0	0
矢掛町	24.4	8	2	1	2	9	8	1	1	7	0	2	8	5	8	4	8	1
勝山町	24.2	4	4	0	1	4	0	1	0	0	0	2	1	0	3	3	2	0
高梁市	24.0	10	8	6	6	20	16	1	4	12	2	7	8	4	5	16	6	11
上斎原村	24.0	2	9	2	4	8	3	2	2	1	1	2	1	1	3	2	1	1
美作町	23.6	7	6	3	4	23	6	0	4	8	3	3	9	1	5	9	4	5
寄島町	23.4	2	23	0	6	10	4	0	4	5	1	2	3	0	3	6	4	5
赤坂町	23.1	0	3	4	2	8	7	0	1	2	1	0	0	0	3	4	1	3
勝北町	23.0	5	3	3	2	7	10	2	3	8	2	6	2	3	7	4	10	3
新見市	23.0	7	11	3	4	10	10	3	5	10	2	9	7	3	3	6	4	11
邑久町	22.7	5	19	0	4	26	10	0	1	6	4	7	5	0	2	1	1	5
笠岡市	21.3	3	8	6	6	21	7	2	4	10	0	5	5	4	11	10	11	7
勝央町	21.3	6	4	7	5	26	6	6	6	8	4	11	12	1	4	5	12	3
吉永町	21.2	2	10	2	4	11	19	2	2	4	0	4	40	4	11	2	9	1
和気町	21.1	4	2	2	1	4	5	1	2	2	1	2	4	2	1	4	0	3
奈義町	20.9	0	0	0	0	3	2	1	0	2	1	0	1	0	0	2	0	4
熊山町	20.1	0	1	0	0	6	4	0	0	0	0	1	6	0	0	3	1	1
井原市	20.0	8	5	4	3	15	21	0	3	8	4	7	8	1	13	13	4	4
金光町	19.9	2	3	3	1	2	3	0	0	2	0	2	1	0	1	4	1	0
備前市	19.0	3	1	7	3	12	21	1	2	7	0	6	4	8	6	6	5	2
瀬戸町	18.6	1	4	3	5	0	10	8	4	3	3	7	4	3	2	13	1	4
鴨方町	18.4	4	3	2	3	8	3	0	0	1	0	4	3	3	0	2	1	2
船穂町	16.9	2	1	1	0	4	4	0	0	2	0	0	6	1	1	0	0	1
里庄町	16.5	5	1	4	1	4	3	1	2	2	2	2	2	2	6	7	7	2
津山市	16.1	15	10	12	17	23	12	6	6	15	3	4	9	5	11	13	13	7
灘崎町	14.8	4	2	3	2	18	13	0	1	8	0	4	11	2	11	3	6	3
真備町	13.9	5	4	0	1	11	8	1	1	2	1	4	4	1	6	0	4	5
岡山市	13.8	20	52	24	22	106	57	5	14	42	11	26	41	19	33	37	30	21
倉敷市	12.8	42	60	28	18	78	54	10	18	51	7	27	46	25	52	40	58	31
早島町	10.2	0	1	1	1	2	2	1	1	2	0	1	0	0	1	1	1	1
合 計		238	386	203	172	739	556	87	141	336	92	229	436	135	276	300	267	207

岡山県下の老人ホームヘルプサービス事業に関する研究

身体症状の実数													合計
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			
12	1	5	6	0	12	9	10	0	0	0		80	
0	0	3	2	0	2	0	2	0	0	0		24	
2	2	2	0	0	15	16	6	0	0	0		134	
0	0	0	3	0	4	8	6	0	0	0		45	
1	3	10	0	0	6	2	9	0	1	1		122	
6	6	1	6	5	12	6	8	0	0	0		132	
0	1	0	0	0	3	0	5	0	0	0		26	
0	1	0	0	2	5	4	0	1	0	0		52	
1	0	1	0	0	7	15	1	0	0	0		105	
10	2	5	0	0	5	2	4	0	0	0		84	
4	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0		12	
14	8	0	0	0	14	11	14	0	0	0		149	
0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0		18	
14	2	6	0	0	3	5	14	0	0	0		110	
0	1	4	0	0	5	3	6	1	0	0		55	
0	1	6	1	1	2	0	10	4	0	0		78	
14	1	3	2	0	10	14	12	0	0	0		121	
2	7	3	1	2	35	26	32	0	0	1		253	
0	0	3	0	0	3	10	10	0	0	1		207	
0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0		8	
34	1	3	0	0	1	14	6	0	0	0		110	
0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		6	
3	0	1	0	0	3	0	6	0	0	0		35	
3	1	5	0	0	2	7	11	0	0	0		102	
0	0	1	0	0	2	0	10	0	0	0		36	
11	7	7	3	1	16	11	6	2	0	0		194	
0	0	5	0	0	11	1	11	0	0	0		73	
0	3	2	0	0	11	7	7	0	0	6		94	
13	5	5	0	0	11	12	13	0	0	0		134	
0	0	1	0	0	4	2	7	0	0	0		39	
0	6	8	1	0	14	9	20	0	2	0		202	
0	3	4	1	0	7	1	1	0	0	0		62	
1	2	3	1	0	12	10	12	1	0	0		142	
0	0	6	0	0	3	1	11	2	0	0		101	
2	0	1	0	0	1	5	6	0	0	5		59	
3	2	5	2	7	10	8	9	1	0	0		127	
1	2	7	0	0	11	11	15	0	0	0		155	
12	2	9	0	0	5	8	5	2	0	8		147	
16	8	3	1	1	11	12	21	0	0	0		193	
41	5	0	2	0	23	11	19	1	0	0		228	
13	7	1	0	0	23	27	8	0	0	0		206	
0	2	4	0	0	1	7	2	0	0	1		57	
0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0		18	
0	0	0	0	0	3	3	1	0	0	0		30	
15	3	5	0	3	9	8	13	1	0	1		179	
0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0		30	
1	4	0	0	1	14	21	16	0	0	0		151	
0	7	6	2	0	10	13	2	0	0	0		115	
0	0	0	0	0	6	3	2	1	0	0		51	
0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	1		29	
8	1	0	0	0	5	7	8	1	0	0		83	
6	5	7	1	4	11	7	16	2	2	1		243	
19	0	0	0	15	11	22	10	0	0	0		168	
13	3	4	0	0	13	5	12	0	0	2		110	
52	16	17	3	12	41	60	88	3	2	1		855	
79	13	18	4	23	54	64	71	5	1	7		984	
0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	3		24	
426	146	199	42	77	510	511	601	28	8	39		7387	

※ 備 考	
番号	症 状
1	抑鬱、不眠<鬱病など>
2	四肢麻痺、拘縮
3	手足のしびれ<末梢神経炎等>
4	手のふるえ
5	視力障害<老眼、白内障など>
6	聞こえにくい<難聴>
7	耳鳴り
8	めまい
9	よく噛めない<歯周病、義歯等>
10	飲み込めない
11	咳、痰がでる<慢性気管支炎、肺気腫>
12	動悸、息切れ<不整脈、高血圧等>
13	前胸部の痛み<狭心症等>
14	食欲不振等
15	便秘、下痢
16	倦怠感、疲れ<貧血等>
17	皮膚掻痒
18	皮膚等老化現象
19	排尿困難、頻尿<前立腺肥大等>
20	失禁
21	アルコール依存
22	性功能低下
23	関節痛<骨粗鬆、変形性関節症等>
24	腰痛
25	歩行時の問題<躓きやすい、転びやすい>
26	外陰部掻痒、おりものの増加
27	子宮脱
28	その他

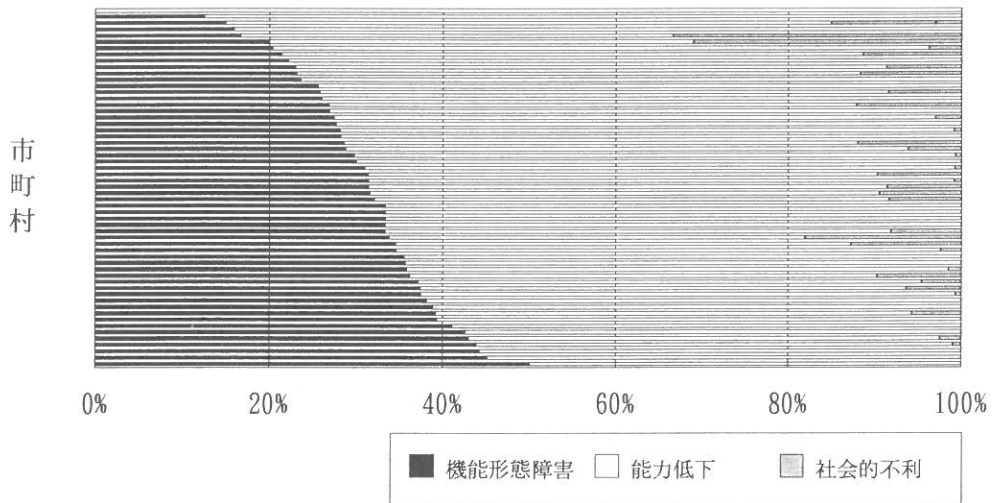


図1. ホームヘルプ事業利用者の身体症状の概要  
(市町村別に機能形態障害の比率でソート)

これによると、市部を含めて奥津町から大原町までのA群と勝田町、久米南町、寄島町の3町によるB群とに分けられる。旭町以下佐伯町までの9町1村は他市町村との類似性が低く、それぞれに個有の特徴がある利用者像が窺える。A群の市町村の特徴は、各症状の平均発現率・標準偏差は県全体と大差はないが、症状A群の発現率はやや低く、B群のそれはやや高い。視聴覚障害や骨関節症状からコミュニケーションや移動の問題が大きく、動悸・息切れなど循環器症状があったり慢性便秘・下痢等の症状がみられたりする利用者像がうかがえる。B群の3町は、平均値より突出した1症状(四肢麻痺・拘縮、皮膚掻痒)を持つ利用者がふくまれていることが特徴的であり、他の症状については平均値より低い。

さらに、ホームヘルプサービス利用者像の市町村毎の類似性をみるためにクラスタ分析をした。(図2)

成羽町から新見市までの5市4町、備前市と哲西町にやや類似性がみられるものの、その他の市町村とは類似性は低い。

すなわち、高齢化率や各種症状の発現率との間における関係からは市町村毎の類似性はみられないようであった。したがってホームヘルプサービスは、ヘルパーの人員・サービスのタイプなど他の要因が含まれて決定される可能性も考えられた。

#### 4) ホームヘルプサービス利用者の愁訴

ヘルパーの訪問時なされる日常的会話からみた辛さや不安などの訴えにおいては、身体面では体調の悪さ、精神面ではこれからの将来への不安に関する事、社会的には家族や親族に関する話題が多かった。(表4)

岡山県下の老人ホームヘルプサービス事業に関する研究

表3. 市町村別ホームヘルプサービス利用者の身体症状の発現率

市町村名	高齢 化率	疾患 数	A群：機能形態障害に類する症状群														B群：能力低下に類する症状群										C群			
			12	1	11	17	16	4	3	19	8	13	7	21	26	27	5	25	6	23	2	24	9	15	20	14		10	22	18
備中町	37.2	80	0	1	1	0	0	1	0	1	3	0	0	8	0	0	5	13	4	15	3	11	6	6	6	1	0	0	15	
奥津町	30.3	132	9	7	4	1	2	1	2	5	1	2	0	5	0	0	5	6	11	9	5	5	5	5	1	2	1	4	5	
牛窓町	25.4	102	4	0	2	6	3	3	3	1	3	1	2	0	0	0	15	11	8	2	6	7	4	7	5	4	2	0	3	
美作町	23.6	142	6	5	2	4	3	3	2	1	3	1	0	1	1	0	16	8	4	8	4	7	6	6	2	4	2	0	1	
高梁市	24.0	202	4	5	3	5	3	3	3	2	3	2	0	0	0	1	10	10	8	7	4	4	6	8	4	2	1	0	0	
勝北町	23.0	127	2	4	5	2	8	2	2	2	2	2	2	2	1	0	6	7	8	8	2	6	6	3	4	6	2	6	2	
久米町	25.1	194	7	3	6	4	3	3	3	4	1	2	3	2	1	0	9	3	6	8	5	6	4	4	4	5	2	1	6	
笠岡市	21.3	193	3	2	3	4	6	3	3	4	2	2	1	1	0	0	11	11	4	6	4	6	5	5	2	6	0	1	8	
岡山市	13.8	855	5	2	3	2	4	3	3	2	2	2	1	0	0	0	12	10	7	5	6	7	5	4	2	4	1	1	6	
倉敷市	12.8	984	5	4	3	3	6	2	3	1	2	3	1	0	1	0	8	7	6	6	7	5	4	2	5	1	2	8		
津山市	16.1	243	4	6	2	3	5	7	5	2	2	2	2	0	1	1	10	7	5	5	4	3	6	5	3	5	1	2	2	
井原市	20.0	179	4	4	4	2	2	2	2	2	1	0	0	1	0	0	8	7	12	5	3	4	4	7	3	7	2	2	8	
新見市	23.0	155	5	5	6	7	3	3	2	1	3	2	2	0	0	0	6	10	6	7	7	7	6	4	5	2	1	0	1	
東粟倉村	29.2	149	9	3	3	2	1	1	3	5	1	1	2	0	0	0	8	9	5	9	5	7	5	3	0	2	5	0	9	
成羽町	28.6	121	7	4	1	0	4	1	2	1	1	0	0	2	0	0	13	10	9	8	2	12	3	3	2	2	0	0	12	
矢掛町	24.4	134	6	6	1	1	6	1	1	4	1	4	1	0	0	0	7	10	6	8	1	9	5	3	4	6	0	0	10	
真備町	13.9	110	4	5	4	5	4	1	0	3	1	1	0	0	0	0	10	11	7	12	4	5	2	0	4	6	1	0	12	
勝央町	21.3	228	5	3	5	1	5	2	3	2	3	0	3	1	0	0	11	8	3	10	2	5	4	2	0	2	0	0	18	
里庄町	16.5	83	2	6	2	2	8	1	5	1	2	2	1	0	1	0	5	10	4	6	1	8	2	8	0	7	2	0	10	
瀬南町	14.8	168	7	2	2	2	4	1	2	0	1	1	0	0	0	0	11	6	8	7	1	13	5	2	0	7	0	9	11	
瀬西市	28.1	253	4	1	0	1	4	2	7	3	3	2	1	0	0	0	11	13	11	14	3	10	2	2	1	2	0	1	1	
備前市	19.0	151	3	2	4	1	3	2	5	3	1	5	1	0	0	0	8	11	14	9	1	14	5	4	0	4	0	1	1	
鏡野町	24.4	94	3	2	3	0	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	13	8	15	13	7	8	8	5	2	6	1	0	0	
赤坂町	23.1	59	0	0	0	6	2	4	7	0	2	0	0	0	0	0	15	11	13	2	6	9	4	7	2	6	2	0	4	
早島町	10.2	24	0	0	0	5	5	5	5	5	5	0	0	0	0	0	10	10	10	5	5	0	10	5	5	0	0	0	0	
美星町	29.0	110	13	2	0	4	0	3	8	2	1	1	2	0	0	0	5	13	10	3	6	5	1	1	5	1	4	0	13	
加茂町	26.4	35	6	6	0	6	0	0	6	0	3	3	0	0	0	0	11	17	11	9	3	0	0	6	3	0	0	0	9	
有漢町	29.5	105	6	1	2	5	8	0	4	2	0	0	0	0	0	0	2	5	4	6	10	2	5	11	6	8	1	0	12	
和氣町	21.1	57	7	7	4	5	0	2	4	4	4	4	2	0	0	0	7	4	9	2	4	13	4	7	7	2	2	0	0	
瀬戸町	18.6	115	3	1	6	3	1	4	3	6	3	3	7	2	0	0	0	2	9	9	3	11	3	11	5	2	3	0	0	
金光町	19.9	30	3	7	7	0	3	3	10	0	0	0	0	0	0	0	7	3	10	3	10	7	7	13	3	3	0	0	0	
上高原本村	24.0	62	2	3	3	2	2	6	3	5	3	2	3	2	0	0	13	2	5	11	15	2	2	3	6	5	2	0	0	
邑久町	22.7	147	4	4	5	4	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	19	4	7	4	14	6	4	1	6	1	3	0	9	
鴨方町	18.4	51	6	8	8	4	2	6	4	0	0	6	0	0	0	0	16	4	6	12	6	6	2	4	0	0	0	0	0	
美甘村	28.7	78	6	4	1	4	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	12	13	14	3	3	0	5	9	8	5	3	1	0	
八束村	24.6	73	12	0	4	1	0	0	0	0	3	5	0	0	0	0	11	15	14	15	1	1	1	1	7	5	1	0	0	
勝山町	24.2	39	3	10	5	0	5	3	0	0	0	0	3	0	0	0	10	18	0	10	10	5	0	8	3	8	0	0	0	
川上町	31.8	134	13	4	1	1	5	2	2	1	1	3	1	0	0	0	13	4	10	11	3	12	5	0	1	1	1	0	1	
吉永町	21.2	206	19	1	2	0	4	2	1	3	1	2	1	0	0	0	5	4	9	11	5	13	2	1	0	5	0	0	6	
船穂町	16.9	29	21	7	0	4	0	4	0	4	0	0	4	0	0	0	14	7	14	7	4	4	7	0	0	4	0	0	0	
熊山町	20.1	30	20	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	3	13	10	3	10	0	10	0	0	0	0	0	
作東町	29.5	84	13	4	14	0	1	0	0	0	5	7	0	0	0	0	18	1	9	7	4	14	1	0	1	1	0	0	1	
大原町	27.8	207	12	2	3	1	2	5	5	0	8	0	5	0	0	0	22	5	10	1	0	5	6	2	1	1	1	0	0	
平均	△		6.4	3.5	3.3	2.7	3.1	2.2	2.9	2.0	1.9	1.8	1.2	0.6	0.3	0.1	10.4	8.1	8.3	7.6	4.7	6.9	4.2	4.7	2.9	3.7	1.1	0.7	4.7	
標準偏差	△		5.1	2.4	2.5	1.9	2.3	1.7	2.3	1.7	1.6	1.7	1.5	1.4	0.9	0.2	4.6	4.0	3.6	3.6	3.1	3.8	2.2	3.2	2.3	2.2	1.1	1.7	5.1	
勝田町	31.0	122	5	0	2	16	2	0	2	2	1	0	1	0	0	1	6	7	9	5	14	2	9	1	8	0	7	0	1	
久米南町	28.7	55	4	0	7	0	0	2	7	2	0	0	0	0	0	0	7	11	13	9	18	5	5	0	7	0	0	0	0	
奇島町	23.4	101	3	2	2	5	4	6	0	0	4	0	0	0	0	0	10	11	4	3	23	1	5	6	6	3	1	0	0	
平均	△		3.3	1.0	4.6	2.5	2.0	3.9	3.6	0.9	2.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	8.6	10.9	8.3	6.0	20.5	3.2	5.2	3.0	6.6	1.5	0.5	0.0	0.0	
標準偏差	△		0.3	1.0	2.6	2.5	2.0	2.1	3.6	0.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.3	0.0	4.4	3.1	2.3	2.2	0.3	3.0	0.7	1.5	0.5	0.0	0.0	
旭町	31.0	45	4	0	0	0	4	0	0	0	0	4	2	7	0	0	13	13	22	9	0	18	2	0	0	0	0	0	0	
阿波村	29.6	52	6	15	4	0	2	12	4	2	0	2	2	0	0	0	0	4	10	6	8	2	2	0	12	4	4	0	0	
富村	32.7	24	13	8	0	0	0	0	0	0	4	0	0	8	0	0	13	8	0	8	17	0	0	8	13	0	0	0	0	0
加茂川町	30.0	26	4	0	19	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	15	19	19	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奈義町	20.9	18	6	0	0	22	0	0	0	6	0	0	6	0	0	0	17	6	11	0	0	0	11	11	0	0	6	0	0	0
芳井町	29.3	12	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	17	0	0	0	0	8	8	0	0	0	33
貫橋町	27.0	110	9	0	0	1	6	0	0	1	1	0	2	0	0	0	9	5	7	1	3	13	0	6	3	2	0	0	0	31
建部町	25.3	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	28	17	6	0	0	28	3	3	3	0	0	0	0
神郷町	29.0	18	0	6	11	6	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	6	0	33	0	0	0	22	6	0	0	0	0	0
北房町	26.6	6	17	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0
佐伯町	27.7	8	0	13	0	0	0	0	0																					



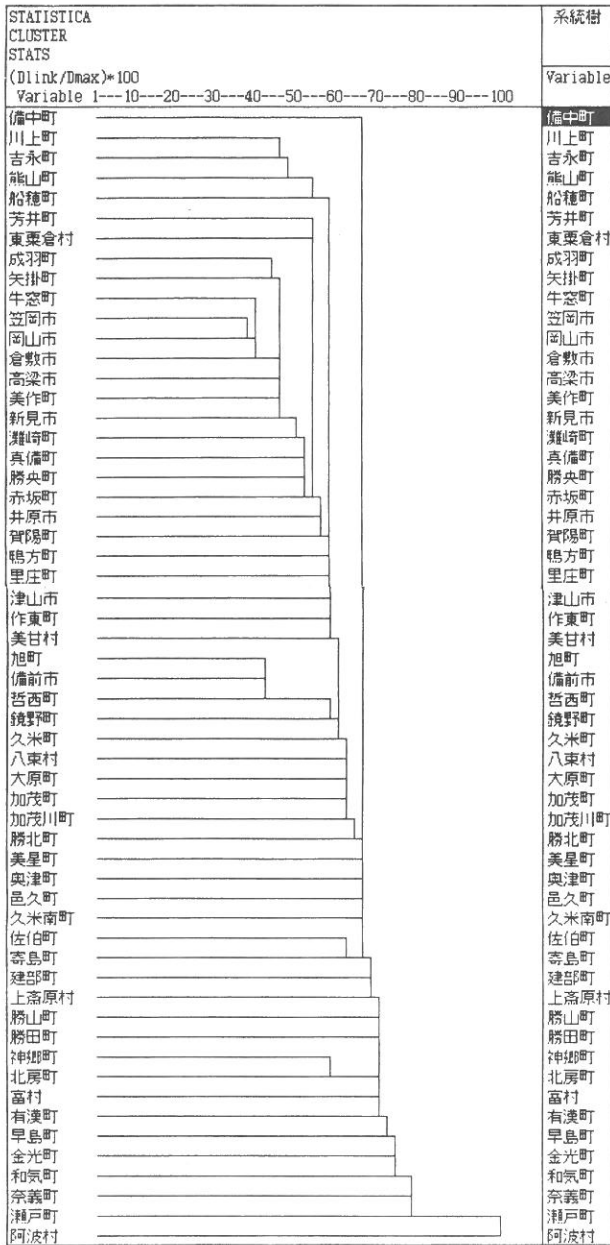


図2. 身体症状からみた市町村別ホームヘルプサービス利用者の類似関係  
(クラスタ分析：標準ユークリッド平方距離による群平均法を採用)

5) ホームヘルプサービスの状況

各種の身体症状をヘルパーの側の体験からみると、視力障害、聴力障害については7~8割、歩行時の問題等四肢や関節に関する症状にはそれぞれに6~7割、動悸・息切れ、慢性便秘・下痢には5割以上の体験があった。各担当ケースへのケア内容を記述してもらったところ、記述の多かったケア内容は歩行時の問題に関するケア方法が46%、難聴に対するものが39%、関節痛・腰痛が30%台であった。また、ケア内容の記述からサービス業務を分類すると身体介護、家事援助はともに15~16%で低く、相談助言が68%で最も多かった。身体介護の内訳は移動の介護、清潔、食事の介護とつづき、家事に関することでは連絡業務が最も多く、主として医師との連絡であった。次いで調理、買い物、清掃であった。(表5, 図3)

もっとも多かった相談助言業務の内容についてみると(表6)、A群の機能形態障害の群では対処方法や助言内容の根拠が希薄であったり、不適切で有るものが目につく。また、「受診の勧奨」も多かった。B群の能力低下の群には補助具・自助具のす



すめや簡単なリハビリテーション指導等に意欲的ところがみえた。老化に伴う慢性的な内部症状には、指導内容に根拠がないとおもわれるものもいくつかあった。

表4. ホームヘルパーとの日常的な話の内容

身体的側面		精神的側面		社会的側面	
体調がわるい	128(77.1)	将来が見えない不安	49(31.5)	若い頃の自慢話	81(19.1)
思うように動けない、	20(12.1)	病気や寝たきり者となる不安	29(18.6)	近隣への不満	46(10.9)
疼きに耐えている	10( 6.1)	施設入所への不安	28(18.0)	孫や子の自慢話	45(10.6)
介護の負担、疲れ	6( 3.7)	終末ケア、死後のまつり	21(13.5)	親族とのトラブル、疎遠	44(10.4)
薬の相談	2( 1.2)	孤独、寂しい	14( 9.0)	世間のうわさ話	38( 9.0)
		死にたい	7( 4.5)	息子、娘の疎遠	34( 8.0)
		意欲がない、話さない	6( 3.9)	社会情勢、時事問題	21( 5.0)
		被害妄想による訴え	2( 1.3)	炊事がめんどろ	21( 5.0)
				嫁への愚痴	19( 4.5)
				趣味の話	18( 4.3)
				苦勞した生い立ち	17( 4.0)
				生活費が足りない	14( 3.3)
				戦時中の話	13( 3.1)
				財産の行方心配	6( 1.5)
				家屋の補修や改善	5( 1.2)
				行政や医師への不満	3( 0.7)
計	166(22.3)	計	156(20.9)	計	425(56.9)
合計			747(100.1)		

表5. 身体症状のある利用者へのホームヘルプサービスの内容例

身体症状	担当ヘルパー数	(率)	ケア回答数	(率)	サービスの内容										計			
					身体の介護					家事に関すること				相談助言				
					食事	排泄	着脱	清潔	移動	調理	清掃	買物	連絡	他		生活	住宅	他
視力障害	242	83.2	75	31.0	1				19		3	12	1	5	22	10	75	
歩行時の問題	213	73.2	97	45.9				2	9		5	1	1		62	15	97	
難聴	220	75.6	86	39.1				6					1		32		86	
関節痛	191	65.7	72	37.8			1	4	2	2			1		62		72	
腰痛	192	66.0	57	29.7				1	1	1	3	2	2		48		57	
動悸、息切れ	168	57.8	45	26.8	4			1					9		31		45	
皮膚等の老化	107	35.1	10	9.8											10		10	
四肢麻痺拘縮	185	63.6	40	21.7				2	12	8		1		3	14		40	
よく噛めない	164	56.4	35	21.4					1		19			8	7		35	
慢性便秘下痢	154	53.0	31	20.2	1	4					1			4	21		31	
抑鬱症状	136	46.8	35	26.5					4					8	23		35	
食欲不振	132	47.5	28	20.3	8									2	18		28	
倦怠感、疲易	135	46.5	16	11.9	7										9		16	
咳、痰がでる	114	49.5	10	7.0					1	2	1			4	2		10	
皮膚の掻痒	125	43.0	18	14.4					3			1		1	12		18	
失禁	117	40.2	18	15.4		4								1	13		18	
手足のしびれ	121	41.6	9	7.5					1	1		1			6		9	
手のふるえ	114	39.2	2	1.8						2							2	
めまい	92	31.7	1	1.1											1		1	
排尿困難	92	31.7	4	4.4											4		4	
前胸部痛	93	32.0	8	8.6							1			1	5		8	
嚥下困難	65	22.4	4	6.2	2						2						4	
耳鳴り	57	19.6	0	0.0													0	
性功能低下	28	9.7	1	3.6											1		1	
アルコール依存症	29	10.0	1	3.5												1	1	
外陰部掻痒	21	7.3	10	47.7											10		10	
子宮脱	7	2.4	0	0.0													0	
小計					23	8	3	31	48	27	14	15	50	6	413	15	57	713
合計	3,314	42.6	713	25.4											485	(68.3)		

担当ヘルパー率=担当ヘルパー数/291. ケア回答率=ケア回答数/担当ヘルパー数

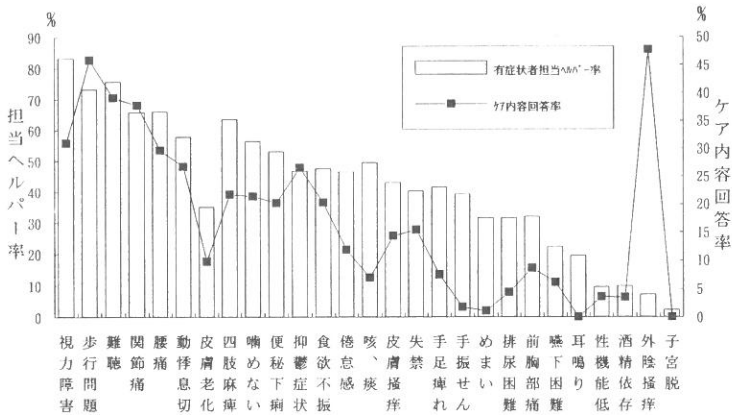


図3. 有症者を担当するヘルパーの割合とケア内容回答率

表6. ホームヘルパーによる利用者への心身に関する相談・助言の実例

症状・疾病	相談・助言の具体的な内容
<b>A群；機能形態障害</b>	
動悸、息切れ＜不整脈、高血圧＞ 抑鬱症状、不眠＜鬱病など＞ 咳、痰がでる＜慢性気管支炎など＞ 皮膚のかゆみ 倦怠感、疲れやすい＜貧血など＞ 手のふるえ 手足のしびれ＜抹消神経炎など＞ 排尿困難、頻尿＜前立腺肥大など＞ めまい 前胸部の痛み＜狭心症など＞ 耳鳴り 74コル依存症 外陰部のかゆみ、おりものの増加 子宮脱	健康・服薬観察、生活指導（減塩・天候・安静・興奮）、受診勧奨 会話する、生活リズム、運動・外出・明るい生活・受診勧奨 注意事項の説明、受診勧奨 入浴注意（低温浴、石鹸・初湯禁）薬物塗布、受診勧奨 散歩の勧め、やる気出す、しっかり食べる、生活リズム、受診勧奨  受診勧奨、保温、マッサージ、足踏み指導 気にやまない、おむつ情報提供、排尿頻度調べ、おむつ交換 受診勧奨 精神的安静助言（行行、くよくよ）、無理しない
<b>B群；能力低下</b>	
視力障害、眼のかすみ＜老眼、白内障＞ 歩行時の問題＜つまづき、転倒＞ 聞こえにくい＜難聴＞ 関節痛＜骨粗鬆、変形性関節炎＞ 四肢のまひ、拘縮 腰痛 よく噛めない＜歯の脱落、義歯不良＞ 慢性的便秘や下痢 失禁 食欲不振、胃のもたれ よく飲み込めない 性機能の低下	受診勧奨、眼のマッサージ、洗顔、眼を冷やす 「マッサージ」 杖・手押し車指導、声かけ（ゆっくり、ころぼぬ）、リハビリ助奨、 補聴器勧め、受診・更生相談助奨、身障手帳手続き助奨 カルシウム摂取、リハビリ、適度の運動、受診、湿布、サポーター、マッサージ、漢方 機能訓練・杖指導、訪問リハビリ助奨、マッサージ 「湿布、マッサージ」 重い物持たない、カルシウム摂取、適度の運動、姿勢注意、腰痛体操 受診勧奨、調理の助言（かみやすいもの） 「服薬、マッサージ」 運動の勧め、調理指導（繊維摂取、繊維切らない調理）、受診勧奨 安心パツツ・時間排尿助奨、失禁体操指導、失禁病理説明、気にしない 気分転換、食事指導（易消化物、多種、少量、嗜好）食中毒予防  男は男らしく、女は女らしく
<b>C群；社会的不利</b>	
しわ、はげ、白髪など老人性変化	気にしない、年をとること大切、まきずめ・水虫予防、気持ちは若く

6) 高齢者福祉施策について

33施策案を列挙し、そのリストから高齢者福祉対策として不可欠・有効と思うものを優先度の高いものから10項目を選んでもらった。1位にあがった項目は、入浴サービス、給食サービス、ホームヘルパー派遣で、次いでデイサービス、往診体制の確立、緊急連絡体制の確立となっている。また、外出援助サービスの導入、日常生活用具給付、訪問看護体制の確立、機能回復訓練の拡充などもそれに次いでいる。この傾向は2位から以下の項目でみた場合でも変わらなかった(図4)。



図4. ホームヘルパーが期待する高齢者福祉施策

### 3. 考 察

岡山県下の高齢化も急速に押し寄せている。各市町村では平成5年度に、平成11年度を目標にした保健福祉サービスの整備目標を策定したが、それは「ゴールドプラン」を大きく上回ることになり、平成6年には「新ゴールドプラン」が策定された。特に、在宅福祉の要であるホームヘルパーが担うホームヘルプサービス事業は、ヘルパーの増員はもとより、その資質の向上も必須である。これらのことから、県下の自治体や民間団体では有資格ホームヘルパーの新規採用、養成講座の開講等の計画をすすめている。その整備状況や現在のホームヘルプサービスの状況から次のような課題が浮上してきた。

#### 1) 将来の介護型ホームヘルプサービス利用者の介護ニーズの増加

現状の利用者は身体に機能障害（主として内部障害）がある者より、四肢機能の障害・低下による移動障害が多い。しかし、高齢者ゆえに今後はこれらの症状が重複して発現する可能性は高い。在宅ケアが進むと内部障害を持つ比重も高くなっていくことは必至であろう。本調査によると、現在のところ、市町村単位のホームヘルパー派遣先は、家事援助型の支援が必要なケースに加えて、高齢者に発現しやすい平均的な身体症状を有するケースが中心であるようである。現状のサービスからは重介護型のケースはみうけられないし、また、身体症状があるケースでも相談助言的な対応が多い傾向からもそのように判断できる。しかし、身体不調の訴えや観察された症状からは、相当の介護ニーズがあることが窺える。今後、各市町村の在宅身体的介護ニーズは、ケースの高齢化や家族関係の変化等でますます増加・重度化していくと予想される。

#### 2) ホームヘルパーの資質

現在採用されているホームヘルパーは、ここ数年の間に採用され経験年数が浅い人が圧倒的に多い反面、十数年にわたって勤務している人もいる。前者は「ゴールドプラン」策定の前後に各市町村が増員したグループとみられるので、ホームヘルパー養成講座の3級ないし2級課程修了者の採用であろう。後者のなかには、看護婦や施設寮母の経験のある人も少なからずいると聞く。しかし、当初、市町村がホームヘルパーを派遣決定するケースは家事援助が中心であったことと、ヘルパー養成の課程の3級はもとより、2級でも介護に関する知識や技術に関する講義、実習の時間数が少ないので、介護福祉士養成課程に比べて十分でない面も多いのではないかとも思える。身体症状のある利用者への対応が移動やコミュニケーションの援助に関しては多いものの、内部障害への相談や指導内容には対応数も低いが、適切さにおいて不安もある様子が窺えるのも事実である。

さらに、在宅介護業務の現場では他の職種、たとえば保健婦や看護婦等との業務連携がスムーズでなかったり、行政や財政の問題が複雑であったりまた、ホームヘルプサービス事業の運営方針が利用者のニーズにそぐわない部分などもあって、介護型としての関わりが伸びない傾向にあるのかもしれない。また、相談助言型の対応が目立つことから、孤独な利用者の様子も浮かんでくる。つまり、利用者がヘルパーへ期待している事は、利用者自身が日常生活の抑制につながる

身体症状の改善や生活行動を拓げる方法や努力への支援よりも、自分の行為や行動の代行者であったり、話し相手としてのヘルパーではなかろうかとも考えられる一面もある。いずれにせよそれらがホームヘルプサービスへの利用者ニーズであるからには、ヘルパーとしては対応せざるを得ない現状がある。これらのことは、ヘルパー自身も現在のホームヘルプサービス利用者のニーズとしての確にとらえているようである。要援護老人への有効な福祉施策のなかに、食事、入浴などの日常生活に加え、外出環境の整備やデイサービスなど生活範囲の拡大などに関する従来の家事型援助範囲からみえる福祉施策と、往診診療や緊急連絡網、介護休暇制度など介護型支援を必要とする施策の重要なことを取り上げており、担当している利用者像の傾向を反映している。つまり、身体症状のある利用者が増加していることにもかかわらず、利用者側のヘルパー利用姿勢やヘルパーの力量など双方にアンバランスなところが有るということではなかろうか。

ヘルパーの資質は、利用者ニーズを適切に把握するための観察能力、将来への予測とそれに関わる支援方法の判断、支援実践能力と評価する能力などが必要となる。すなわち、支援活動の一連の展開において専門職としての視点をもつことと、さらに、他の関係職種との連携においてケア専門家としてケア計画に参加したり、行政にも提言できるような資質が期待される。

### 3) ヘルパーの現任教育

現任ヘルパーに継続教育として必要なことは、介護型ヘルプサービスに関わる医学や看護学、リハビリテーション学、栄養学などの知識や技術を中心にしたものと、チームケア、ケアマネジメントの概念と他職種との連携技術などが急務を要すると考えられる。

以上のようなことが明らかになった。各市町村ではそれぞれの自治体の実状に沿って高齢者福祉施策を策定し努力を払っている今日ではあるが、在宅ケアの要であるホームヘルプサービス事業の更なる向上発展を願ってやまない次第である。

## お わ り に

平成8年度よりホームヘルパー養成講習会のカリキュラム内容が改訂される。それによれば、本研究で明らかになった方向と改訂の方向が、ほぼ、一致している。この方向は、これからの介護福祉士の養成にも心して取り組まなければならないポイントであると同時に専門職としての業務範囲、業務連携に関わる関連他職種との問題点の明確化、卒後教育、雇用問題等山積している諸問題にも取り組む必要がある。これらのことは、単に関係者だけの問題ではなく、これから日本が突入する超高齢社会を運営する柱ともなる政策の一端として国民にも関心をもってほしい。同時に福祉の上手な利用者としても育ててほしい期待もある。

新ゴールドプランの主旨を踏まえ、質的にも、制度的にも超高齢者社会を支えることのできるホームヘルプサービス事業の発展を期待するものである

### 謝辞とお詫び

本調査にご協力くださいました市町村，社会福祉協議会，ホームヘルパーのみなさま方に深く御礼申し上げます。

なお，ご多忙にも関わらず本調査にご協力いただいた総社市，山手村，柵原町につきましては，回答時期や基礎データの把握に当方の不手際があり入力できておりません。お詫び申し上げます。

### 参考文献

- 1) 岡山県立大学短期大学部特別研究（代表・橋本祥恵）；老人・障害者（児）援助業務に関する調査報告書（第2），平成6年度
- 2) 財団法人 長寿社会開発センター；ホームヘルパー養成研修カリキュラム検討委員会報告書，平成7年
- 3) 岡山県社会福祉協議会編；社協便覧，平成7年度
- 4) 岡山県編；活力に満ちた明るい長寿社会をめざして－岡山県高齢者保健福祉計画－，平成6年
- 5) 厚生省老人保健福祉局老人福祉計画課他監修；ホームヘルパー養成研修テキスト，3級，2級各編，長寿社会開発センター，1994
- 6) 林 謙治他；長寿科学ニーズ基礎調査報告書，長寿科学振興財団，1991
- 7) 上田 敏他；目で見えるリハビリテーション，東京大学出版，1994

（平成7年11月30日受付）  
（平成8年1月18日受理）